

府民の森ひよし（日吉町天若）を会場に、バーベキューや森林散策、ゲームなどを通じて市民と外国籍府民らが交流する「フィールドトリップ in Nantan 2009」が京都府国際センターとの共催で行われました。日吉町国際交流協会で行っていた事業を引き継ぎ、南丹市国際交流協会が主催する初の交流イベント。市内の中高生も参加し、互いの文化などを紹介しながら、秋晴れの中で和やかに世代や国籍を越えた会話を弾ませていました。



▲野だて（茶席）を楽しむ参加者ら

## 「広がる国際交流のフィールド 国籍・世代を越えた触れ合い」

（9 / 13 フィールドトリップ in Nantan 2009）

## 「拍手、声援を受けて 仲間の笑顔に笑顔」

（10 / 1 美山町障害者スポーツ大会）



◀ 割り符競走で仲良くゴール！

今年で17回目の開催となった「美山町障害者スポーツ大会」。これまでは南丹市身体障害者福祉会美山支部が中心となって開催されてきましたが、今回からは3障害（身体、知的、精神）の団体が連携して、新たに実行委員会形式で行うこととなりました。美山育成苑の体育館に集まった大会参加者は、紅組と白組に分かれて大玉ころがしや輪投げ、板の形を合わせてゴールする割り符競走など10種目に挑戦。仲間への拍手や声援が飛び交い、笑顔があふれていました。

## みんなのひろば まちの話題を紹介します



▲野中廣務氏の話に聞き入る子どもや地元住民

三世代のつながりを強め、子どもたちに戦争の記憶が語り継がれる機会を作ろうと、園部町の城南町子供会と同区が戦争体験者など3人の地元出身者による講演会と写真パネルなどの展示を開催。17歳で志願して海軍に入隊した野中次郎氏は、訓練時に園部上空を旋回飛行。当時を知る人々の記憶にも残っているそうです。野々口義之氏は戦死した父の遺品を手に、今も野ざらしにされている戦没者の遺骨収集への思いを熱弁。軍国少年として育った野中廣務氏は、敗戦の経験により戦争責任と真の平和について強く訴えられました。講演者の話に子どもたちは真剣な表情で聞き入り、時折涙をぬぐう戦没者遺族の姿もありました。

## 「語り継ぐ記憶、戦争の傷跡今もなお」

（9 / 12 城南町三世代交流事業講演会）



右：展示した写真で無残な遺骨の現状を伝える野々口氏  
左：飛行兵としての実戦体験を語る野中次郎氏